

仙台空港の夜間工事現場見学会を開催しました

8月29日(水)23時から25時にかけて、東北大学の学生と海外からの留学生ら11名に、大学および行政関係者らを加えた約30名の参加により、東日本大震災によって被災した仙台空港B滑走路の舗装改良と、C誘導路の地盤改良の工事現場の見学会を開催しました。

見学会では、大規模地震によって発生する液状化により、C誘導路直下にある県道地下道(ボックスカルバート)の浮き上がりを防止するために、浸透性の高い薬液を使用して地盤に含まれる水をゲル状の物質に置き換えて固める浸透固化処理工法をデモンストレーションにより説明しました。

また、B滑走路の舗装改良工事では、路面の清掃、専用の作業車で乳剤の散布をする作業や、アスファルトの混合物を敷き均してローラーで転圧している様子を見られました。

参加した学生からは、『地盤改良の仕組みが実演を交えて非常に分かりやすかった』『舗装の仕組みが初めて分かった』『空港の利用を妨げないように夜間工事を行っていることや、一晩でできる範囲を復旧しながら進めていくことを初めて知った。新鮮だった』などの感想をいただきました。

短い時間の見学でしたが、工事の様子を間近で体感していただけだと思います。
今後も安全第一で工事を進めて参ります。

以下に東北大学の西村先生からのメッセージを紹介します。

参加者一同、とても勉強になりました。土木の最先端技術に驚嘆し、また縁の下の力持ち的な土木の仕事の素晴らしさをあらためて意識する機会になりました。
今回はとても貴重な機会を与えていただきまして本当にありがとうございました。
現場の方々にも深く御礼申し上げます。



C誘導路の浸透固化処理工法のデモンストレーションの様子



B滑走路のアスファルト舗装の様子